

天守閣木造復元にかかるお金等について

優秀提案に示された概算事業費（建設費・設計費）505億円を基に収支計画を試算しました。運営管理費も含めた総事業費については、市債を発行するなど財源を確保し、全額、入場料収入で返済します。

今回の収支計画を試算するにあたり、入場料については、市民450円、市民以外1,000円と設定しました。

市民については、「名古屋城は長年にわたり市民に支えられてきた施設ですが、来場者の中で市民の占める割合が少なく市民に配慮する必要がある」、「戦略的なシティブロモーションの一環として、市民に名古屋城の魅力を情報発信する役割を担ってもらう」ことなどから特別料金を設定しています。なお、入場料の変更には、条例の改正が必要です。

収支計画
（期間:平成28年度～平成81年度）
名古屋城入場料(竣工後)：市民450円
市民以外1,000円／現行500円

収 入			支 出		
事 項	金額(億円)	積 算	事 項	金額(億円)	積 算
入場料収入	979	名古屋城全体の 入場料収入のうち、 75%を天守閣に充当	建設費 (利子含む)	606	元金：約505億円 利子：約101億円
		H32（8カ月）約18億円 （入場者331万人） H33 約24億円 （入場者446万人） H34 約22億円 （入場者401万人） H35以降 約19億円 （入場者360万人）	運営管理費	276	H26年度の実績に基づき算出 H28～31年度(天守閣閉鎖中) 各年度平均約1億円 H32～81年度 各年度平均約5億円
			集客促進費	2	木造復元にかかる周年事業
			修繕費	31	平成81年度までの必要額
			基金積立	64	支出を上回る収入について 基金積立
計	979		計	979	

※収支計画は、起債の償還期間終了までの平成28～81年度で作成しています。 ※起債の発行年率や年次割等は、直近の実績などを参考に一定の条件で算出しています。（年率0.665%、40年償還、20年償1回借換えなど）

名古屋城本丸御殿 第2期公開「対面所・下御膳所」公開開始!

本丸御殿は、現在国宝である京都・二条城二の丸御殿と並ぶ武家風書院造の最高傑作といわれています。その歴史的意義を踏まえ、焼失前と同等の文化的価値を有するとともに世界的な市民の財産となるように、平成30年の全体公開にむけて本丸御殿の復元を進めています。



本丸御殿と天守閣



第1期公開 表書院



公開開始「対面所」の見どころ

障壁画

風俗図〔愛宕山〕対面所上段之間西側床の間壁貼付

洛西の愛宕山を背景として、川畔に涼を求める公家衆の遊樂の様子や、武士や女性らが水浴びを楽しむ夏の季節を描いています。



(復元模写)

格式高い天井

対面所上段之間(西北側)

上段之間と次之間の天井は、より格式の高い「折上げ小組格天井」。上段之間では、中央部でさらに一段折り上げた「二重折上げ小組格天井」になっており、重厚かつ華美な意匠が凝らされています。



- ア ク セ ス：地下鉄「市役所」駅7番出口徒歩5分、市バス「名古屋城正門前」徒歩1分
- 名古屋城観覧料：大人500円、市内在住65歳以上100円（住所・年齢の確認できるものを持参）、中学生以下無料
- 連 絡 先：名古屋城総合事務所(中区本丸1-1) 電話：(052) 231-1700 FAX：(052) 201-3646

(HP) www.nagoyajo.city.nagoya.jp

問 合 せ：名古屋市役所 観光文化交流局 ナゴヤ魅力向上室
 電 話：(052)972-2226 / FAX：(052)972-4199
 問合せ時間：月曜日から金曜日の午前8時45分から午後5時30分まで(祝日を除く)

発行部数:1,065,270部

この特集号は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。



名古屋のシンボル
 「名古屋城」。
 「名古屋城天守閣の整備」
 について

名古屋城のあゆみ

戦 前



1610年に徳川家康の命によって築城に着手し、1612年に天守閣が竣工されました。1930年に天守閣・本丸御殿が城郭として国宝第1号(旧国宝)に指定されました。

戦災による焼失



昭和20年5月14日、空襲により大天守閣・小天守閣など多くの建物が焼失しました。

写真:東海軍管区司令部報道部 岩田一郎氏 撮影「名古屋空襲を記録する会」蔵

戦 後



昭和32年に工事に着手し、昭和34年に竣工しました。総工費6億円のうち、約2億円が寄附で賄われました。

再建から
 半世紀が経過し、
 さまざまな課題が
 発生しています